

■「聴覚障がい児の言語としての手話獲得支援」に係る高度専門性の確保について

○「聴覚障がい児の言語としての手話獲得支援」関係施策の経過等

- ・河崎部会長のフィールドワークをベースに、「府手話言語条例検討部会」での検討等を経て、大阪聴力障害者協会・河崎部会長等の協力を得ながら、昨年度より「こめっこ」をスタート。延べ700人程度の聴覚に障がいのある子どもたちに手話の習得の機会を提供。保護者から、「心理面での大きな支えとなっている。」との声や、「こめっこ」を視察した言語教育に係る学識者から、「綿密で周到に準備された教育プログラムと有能で訓練されたスタッフ、そして皆さんの熱意と愛情で、ほんとうに素晴らしい場が創られている。」との評価が寄せられている。
- ・今年度からは、「こめっこ」と連動した取組みとして、出生後間もなく子どもの聴覚に障がいがあるとわかった保護者への相談支援や、乳児とのコミュニケーションに特化した保護者対象の手話習得支援も府の施策としてスタート。これら関連施策の連携を図るための「ネットワーク」やその連絡調整機能の確保も図ってきた。
- ・今後、これら関連施策へのさらなるニーズの高まりから、聴覚障がい児の言語としての手話獲得支援に係る関係施策の専門性と体制のさらなる確保・強化を図っていく必要がある。

○聴覚障がい児言語獲得支援タスクフォース（仮称）など

■聴覚障がい児やその保護者への支援に関する次の各分野の高度な専門的識見や経験等を有する者により構成。

- ・発達支援（言語面・心理面等）関係（河崎部会長）
- ・教育関係
- ・心理的支援関係
- ・言語としての手話獲得支援関係
- ・コーディネート関係



これらの者による「タスクフォース（仮称）」を府として正式に位置付け。
6名程度で構成。

■主な役割

- ・関連施策年間計画・「こめっこ」等個別計画の策定（「こめっこ」の毎回のプログラム等を含む。）
- ・運営スタッフ等の専門性の確保等
- ・関係機関（ネットワーク等）や関連施策の連絡調整

■スケジュール等

- ・年度内に速やかに設置・運営準備を進める。
- ・施策全体の連携体制については、引き続き、府と関係機関との契約や協定により確保。

■運営スタッフの専門性確保等

- ・「こめっこ」等運営スタッフについても、必要とする専門性・養成プロセス・府への登録等の仕組みを今後、速やかに導入。